

英語科学習指導案

日 時:令和7年10月29日(水)5校時
 学校名:稲美町立稲美中学校
 対 象:3年3組Aクラス 16名
 指導者:山 口 耕 平

1 単元について

単元(題材)名	NEW HORIZON3 Unit5 What makes a good leader?		
学習指導要領に 関する領域別目標	(4) 話すこと[発表] ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。		
単元(題材)の目標	ガンディーの功績を知り、平和や人権の意味について考えることができる。また、自分の尊敬する人について考え発表することで、自分の生き方を考えるきっかけとすることができる。		
生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識 基本文を中心に既習の文法事項を理解し、適切に活用しようとする姿が見られる。文構造の理解をさらに深め、より正確な文の運用を図ることが今後の課題である。 技能 単語の発音は概ね正確に行うことができるが語と語の連結における音の変化と運用に課題が見られる。 ※2年生の教科書を使用し、連結する箇所、消失する箇所を自分で見つけさせ、それをALTの発音を通して読めるよう指導している。	・Stage Activity 1 では、関心のある事柄について、聞いたり読んだりした情報をもとに、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができた。 ・前単元の Unit Activity では、社会的な話題(防災・地震)について、グループ発表を行った。必要な情報や考えを調べたうえで自分の考えや気持ちを整理し、書いたり話したりして表現することが今後の課題である。 ※自分の言いたいことに関して、思考ツール(マンドラ・チャートと階層式マッピング)を用いて、整理し、仲間に分かりやすく伝えることができるように指導している。また、Picture Describing で即興的に写真やイラストの人物やものを仲間に説明する訓練を毎時間取り入れている。	・仲間を認め合いながら、外国語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が多くみられる。 ・前単元で行った「外国人が日本で被災したときにすべきこと」に関する発表活動では、仲間の意見、発表や助言をきっかけにし、自らの表現を改善しようとする意欲が見られた。 ※Today's Teacher の取り組みを通して、友だちの発表を認め、即興的に質疑応答をする訓練を毎時間取り入れている。
単元(題材)設定の理由	(1) 生徒観 英語を話したいという気持ちはありながらも、正しい文法が分からないことや、間違えることへの恥ずかしさから、自分から英語で話そうとする意欲が低く、話すことに抵抗を感じている生徒が多く見られた。しかし、毎時間の帯活動を通して、少しずつ英語を話すことへの抵抗感が薄れ、自信をもって発話しようとする姿が増えてきた。また、ペア活動やグループ活動では、仲間の意見をよく聞き、良い表現や考え方を自分の発表内容に取り入れようとする姿も多く見られるようになった。 (2) 教材観 本単元では、インドの最高指導者であるガンディーの功績を紹介し、平和や人権について考えることをねらいとしている。題材に入る前に、生徒はこれまで行ってきた「ALT に紹介したい日本文化」や「防災」をテーマとしたプレゼンテーション活動を想起し、それらの経験をもとに新しい学習に取り組む。		

	単元の最終目標としては、「自分が尊敬する人」について、具体的なエピソードを交えてクラスや ALT に伝えることを設定している。 (3) 指導観 本単元の目標は、「自分が尊敬する人」について英語で伝えることである。そのために、まずマンダラ・チャートを用いて尊敬する人について伝えたい内容のアイデアを広げ、さらに階層式マッピングを通して具体的な説明の構成を考える。これらの活動を基に、即興的に自分の考えを英語で表現する練習を重ねていく。また、今年度重点的に取り組んできた「基本文の定着とスピーディーな活用」を本単元にも生かす。単に意見を述べたり書いたりするだけでなく、基本文を用いた意見交換やアドバイスのやり取りを通して、より良い発表となるよう意識させながら授業を展開することを重視する。さらに、友達の意見や助言を取り入れ、自分の発表内容をより深め・広げていくことが、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、言語活動を工夫していく。		
単元(題材)の 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識 名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that[which]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 技能 学んだ文の作りを活用し、詳しい情報を加えながら、人やものを詳しく説明することができる。	・「自分が尊敬する人」はどのような人かを伝えるために、その人の情報について、事実や自分の考えを整理して、聞き手に分かりやすく伝えることができる。 ・聞き手は聞いた内容をもとに情報を整理し、即興で質問することができる。	・「自分が尊敬する人」はどのような人かを伝えるために、その人の情報について、事実や自分の考えを整理して、聞き手に分かりやすく伝えようとしている。 ・授業活動(ペアワーク、グループワーク、発表)に積極的に参加し、推敲を繰り返しながら自分の発表をより良いものにしようとする態度が見られる。 ・第7時を中間発表と設定している。その活動の中で、友人の意見、発表や助言をきっかけにし、自らの表現を改善しようとする姿が見られる。

2 単元の指導と評価の計画(全8時間) ※backward design での単元計画

時間	活動・学習内容	【評価の観点】 評価規準	授業ののりしろ(◇) 学習課題(■) 主な学習活動(○)		
			単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面		
8	「自分が尊敬する人」について理由を述べながら個人で発表する。 発表終了後、質疑応答を行う。 発表後に全体で振り返りを行う。	【話すこと】(発表) 「自分が尊敬する人」について友達からの意見や助言を取り入れた発表を行うことができる。 【話すこと】(やりとり) 友だちの発表を聞いて即興で質問を行い、答えることができる。	◇前回の発表の振り返りを再確認する。 ■発表の最終チェックを行う ①発表の前にイメージトレーニングを行う ②前時に友達からもらったコメント(助言)をチェック ■最終の発表を行う ③意見や助言を取り入れた最終版のスピーチを行う。終わったら発表者に対してクラスの仲間が即興で質問を行う ④発表で言った内容をノートに書く。 ⑤自分や仲間の頑張りや成長を認め合えるような振り返りを全員で行う。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

7 (本時)	「自分が尊敬する人」について、階層式マッピングを基に簡単な語句や文を用いて伝える練習を行う。	【話すこと】(発表) 仲間同士で尊敬する人物を紹介しあい、内容をよりよいものにすることができる。	◇関係代名詞(who)の復習を取り入れる。 ■Teacher Talk ①ALTとJTEの尊敬する人物について聞く。 ②階層式マッピングをもとに発表内容を確認し練習する。 ③階層式マッピングを用いて考えをまとめ、仲間と話す中でスピーチ内容の質を高めていく。 (練習→ペア→改善→ペア→改善→ペア) ◇次回は全員発表することを伝える。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
6	「自分が尊敬する人」について、マンダラ・チャートを用いて考えをまとめ、説明のための準備を行う。	【話すこと】(発表) 「自分が尊敬する人」についてマンダラ・チャートを使って考えをまとめ、簡単に相手に伝えることができる。	◇ガンディーがなぜ尊敬され続けているのかをおさえる。 ■Teacher Talk ■マンダラ・チャートの作成 ①生徒が尊敬する人について必要な情報をマンダラ・チャートで広げる ②具体的なエピソードを入れることを伝える。 ③マンダラ・チャートをペアで確認し、アドバイスを送りあう。 ◇次回は階層式マッピングを書いて話していくことを伝える。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
5	ガンディーの伝記を読み、内容を理解し、本文のスライドをリテリングする。	【読むこと】 ガンディーの伝記を読み、ガンディーの功績を正確に読み取ることができる。 【話すこと】 写真を自分の言葉で説明することができる。	◇ガンディーのstory slideを用いて、内容を再確認。 ■教科書 p64,65 を読み概要を理解する ①story slideを使用し本文の概要を理解する ②story slideを自分の言葉で説明する。 ③ペア・グループで意見を言い合う。 ◇次回から発表準備に入ることを伝える		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
4	ガンディーについての本文を読み、本文のStory Slideを時系列に並べる。	【読むこと】 ガンディーについての本文を、既習事項を用いて読むことができる。	◇ガンディーがどんな人物だったかを振り返る。 ■教科書 p64,65 を読み概要を理解する ①新出単語を確認する。 ②story slideを正しい順番に並べかえる ◇Unit5の本文全体から、自分のプレゼンに応用できそうな表現を抜き出しておくよう伝える		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
3	純とアナの対話を読み、オリジナルのスキットを作る。	【読むこと】	◇前時の人物クイズをいくつか紹介する。 ■Teacher Talk		

		Part1,2の本文を読み、ガンディーについての紹介の概要をとらえることができる。	①ガンディーに関するおおまかな内容を理解する ②新出単語を確認する。 ③ガンディーについての内容理解の確認を行う。 ④p.63の対話を読み、ペアでオリジナルスキットを作る。 ⑤オリジナルスキットを発表する。 ◇次回は写真を自分の言葉で説明することを伝える。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
2	関係代名詞(who)を用いて人物クイズを作り、ペアで出題しあう。	【書くこと】 関係代名詞を活用した人物クイズを仲間に出題することができる。	◇私の好きなものの復習を行う。 ■Teacher Talk JTEが人物クイズを使って生徒とインタラクションを行う。 ■人物クイズを作成する ①マングラ・チャートで人物についての思考を広げる ②階層式マッピングを用いて思考をつなげる ③ペアでクイズを出し合う。 ④発表した英文をノートに書く ◇最後にガンディーのクイズを出し、この人物についての話を次回に読んでいくことを伝える。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	名詞+主語+動詞の表現を用いて、自分の好きなものについて英語で説明する。 自分が考えた英文をノートに書く。	【書くこと】 自分のことをよりよく知ってもらうために、好きなものを英語で仲間に説明することができる。	■名詞+主語+動詞の文法を理解する 自分の好きなものを用いて生徒とインタラクションを行う ■自分の好きなものについて英文を書く ①マングラ・チャート(why do you like it?)を用いて好きなものについて思考を広げる ②階層式マッピングを用いて好きなものについての思考をつなげる ③ペアで好きなものを伝え合う。 ④話した英文をノートに書く ◇次回は人物クイズを作ると伝える		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

3 本時(第7時)の目標

仲間同士で尊敬する人物を紹介しあい、内容をよりよいものにすることができる。

4 本時の展開
 ():教師主導の活動 ():ペアやグループ活動 ():個人の活動

段階	学習内容(分)	教師の役割	※指導上の留意点 ◆評価【観点】									
導入	1. <u>Picture Describing</u> (3)	・ペアで『guess who?』 クイズを行い、人物を描写する活動をさせる。	※英語での説明を目的とする活動の時はジェスチャーを使わせないようにする。 ※クイズの中で関係代名詞の復習を行う。 ※元気よく行わせる									
	2. <u>Today's Teacher</u> (5)	・教師役の生徒が前に出てきて進行する。(曜日、日付、天気の確認) ・教師役生徒は1分で『自分』をテーマにしたスピーチを行う。(聞き手はスピーチを聞きながら、マンダラ・チャートにメモをとる。)	◆要点をとらえて質問をすることができる 【知識・技能】 ◆質問に対して適切に答えることができる 【知識・技能】									
	3. <u>Teacher Talk①</u> (4)	・聞き手は質問を即興で考えて発表し、教師役生徒は即興で答える ・ALT の映像 (オンラインで JTE と ALT がやり取りをしている設定のもの) をみせる。生徒は ALT の尊敬する人物を聞き取る。	※質問シートを参考に質問を考えることを促す。 ◆話の概要をとらえることができる 【知識・技能】聞くこと(イ)									
	4. <u>めあての確認</u>											
展開	仲間同士で、自分が尊敬する人物を紹介しあい、内容をよりよいものに改善することができる。											
	5. <u>前時で作成したマンダラ・チャートをもとに、階層式マッピングを作成</u> (3)	・机間指導をする。	・マンダラ・チャート 例									
	6. <u>ペアで内容を確認しあう</u> (2)	生徒はペアの階層式マッピングを見て、アドバイスを伝える。	<table><tr><td>英語</td><td>はんこ</td><td>海外旅行</td></tr><tr><td>弓道</td><td>なぜ尊敬するか</td><td>活発</td></tr><tr><td>文学</td><td>情熱</td><td>スノボ</td></tr></table>	英語	はんこ	海外旅行	弓道	なぜ尊敬するか	活発	文学	情熱	スノボ
	英語	はんこ	海外旅行									
弓道	なぜ尊敬するか	活発										
文学	情熱	スノボ										
7. <u>Teacher Talk②</u> (3)												

ま と め	8. 個人で発表練習(3)	・JTE が自分の尊敬する人についてのスピーチを行う。	・マンダラ・チャートは埋めることが目的ではなく、自分が紹介したい内容を書くように伝える。
	9. 教師の足場架け※(1) ※生徒へのアドバイス	・個人で階層式マッピングを見ながら、発表練習を行わせる。2回目は階層式マッピングをみずに発表練習を行わせる。(うきわはずし) ・良かった点、気づいた点を伝える。	・階層式マッピング 例
	10. ペア練習①(3)	ペアで発表練習を行わせる。(横ペア)	
	11. 足場架け&作戦会議(2)	・良かった点や気づいた点を伝えあい、発表内容をより良いものにする。(横ペア)	※机間巡視をして表現に困っていれば、ヒントを与える。良い表現がいれば「足場架け」で全体に共有する。 ※発表練習は階層式マッピングを見ずにするよう促す。(ちらみは許可)
	12. ペア練習②&③ 足場架け&作戦会議(8)	ペア活動①と同じ手順で進める。 (前後・ななめペア)	◆仲間や教師のアドバイスを取り入れて発表をより良いものにできているか【主体的に学習に取り組む態度】
	13. 小グループで発表・ 質疑応答(8)	・4人1グループで発表会を行う。 終わった後、即興で質疑応答を行う。	※発表中は階層式マッピングを見ずにするよう促す。
	14. 振り返り・次回予告(5)	・本時でできたこと、学んだこと、難しかったことを日本語で発表、記入させる。 今日の感想を伝える。 ◇次回全員発表することを伝える。	※みんなを認め合えるような振り返りを行い、次時へのわくわく感を持たせる ・書いた振り返りシートは授業後回収する。